

優秀賞

公益財団法人北海道青少年育成協会会長賞

過去を乗り越えて

渡島地区 北斗市立茂辺地中学校 2年 房田 心玖

私は、現在茂辺地中学校に通っています。茂辺地中は少人数ながらも英語活動が盛んな学校で毎日楽しく過ごしています。小さいけれど生徒会の副会長を務めています。

でも私は、本来通うはずの中学校ではなく、特認校制度というものを利用し、校区外通学をしています。私が校区外通学を決めた最初のきっかけは、小学校の頃の不登校でした。

不登校という言葉の響きは今も私の中で様々な感情を呼び起こします。

ですが今回、自分自身の気持ちと向き合いたいと考えました。この場をかりて、2年間の私の気持ちの変化についてお話ししたいと思います。

学校に通えなくなったのは、小学校5年生のときに、突然陰口を言われたのがきっかけでした。クラスで1番仲の良かった子が私のことを陰でいろいろ言っていると。最初は嘘だと思い、信じていませんでした。けれど、徐々に私への態度、行動、話し方に違和感を覚えていき、実際に聞いてしまいました。なんでそんな風に悪く言うんだろう、仲良くしていたのに、私が何かしたの？

それからは上手く友達とつきあえなくなり、人に自分がどう思われているのかが気になって、不安ばかり感じるようになりました。

不登校中の自分は、このままで中学校に行けるのか、自分はこの先大丈夫なのかと、不安ばかり募っていました。今思うと、私は学校に行くことで、人に会うことで、人の目が気になってしまったのだと思います。

人の目を気にして、学校へ通えない自分は入学してもまた通えなくなると思いました。けれど、誰かと関わりたい、という思いは強く、全く新しい環境でもう一度、学校生活をやり直そうと決心したのです。

両親が、市内の学校を沢山調べてくれたり、私の心の状態や気をつける所を話してくれたりしました。いくつかある中で私の胸に響いたのが、少人数の茂辺地中でした。

自分が転校という選択ができたのは、両親のおかげでもあります。ですが、自分自身でも決断できたのは、新しい環境に行けば自分を変えられると思いました。全てやり直し、次こそは1人1人とのコミュニケーションを大切にしたいと思いました。

中学校の1年を振り返ると、やはり壁にぶつかることや、クラスメイトとのすれちがいも多くありました。そのときは、学校に行きたくない過去の自分が顔を出すことがあります。ですが、お互いに話すことで、気まずいままじゃ周りに良くない雰囲気になるとわかりました。同時に元の関係に戻りたい、もう1度仲良くしたい、そう思える友達なんだなと強く思えました。そして、待っているだけじゃ変わらないので、自分から良い形にしていきたいと思い、いろいろあっても仲間と楽しく過ごしています。

それでも自分はまだ「信用」というものが怖いです。どれだけ時間が過ぎても、トラウマは改善されていません。誰に対しても「裏切り」を考えてしまう自分自身を「怖い」と思います。

もちろん変わったこともあります。人の顔を見て話せるようにもなり、コミュニケーションを楽しめるようになったんです。人とのすれちがいに傷ついても、もう1度その人と向き合おうと、前を向けるようになったことが自分なりの成長だと感じています。

人を信じるのが怖くなった自分が、最後まで信じるのが出来たのは、父と母でした。支えてくれた両親がいてくれたからこそ、私は不登校を乗り越え、今の学校生活を送れているのだと改めて思いました。

経験したトラウマの中にずっといても、自分の世界は閉じられたままでした。それでも世界を変えようと思ったのは、両親の存在が大きいです。最後に、過去の自分から抜け出せるきっかけをくれたクラスメイト、お父さん、お母さん、本当にありがとう。